

市川ノ七關ヲ嚴ニシテ、以テ江戸ノ守衛ニ當テタリ、元祿ノ頃奉行ヲ廢シテ、所在ノ領主ヲシテ之ヲ預ラシム、領主ハ更ニ與力同心、又ハ番頭、常番、足輕、中間等ヲ遣リテ、之ヲ守ラシメタリ、此時ニ當リテ古ノ過所ハ既ニ其名ヲ失ヒ、新ニ通手形ノ稱起レリ、

通手形トハ、關所通行人ノ身分、容體所用物品等ヲ明記シ、之ニ身元引請人、又ハ主人頭支配等ノ直判ヲ押セル證文ニシテ、大抵二箇月ヲ以テ通用期限トシ、之ヲ過レバ必ズ勘定所ヲ經テ、留守居ノ添狀ヲ請ハシメタリ、武器ノ運搬、婦女ノ通行ハ殊ニ嚴察スル所ニシテ、鐵砲、弓、長柄等、領主行列ニ用キルモノ、外ハ、必ズ老中稀ニハ留守居ノ裏印ヲ用キルコトアリノ裏書ヲ請ハシメ、女手形ニハ留守居ノ證文ヲ添ヘ、且ツ檢閱ノ女ヲシテ子細ニ其容貌ヲ查覈セシメタリ、是故ニ若シ私ニ關ヲ通行スルモノアレバ、輒チ之ヲ主殺、親殺、師匠殺ノ三罪ニ準ジ、以テ磔刑ニ處セリ、慶應三年大ニ改革ヲ行ヒ、從來ノ制ヲ弛メテ、印鑑引合ヲ廢シ、鐵砲手形、女手形ト雖モ、別ニ裏書ヲ要セザルコト、ナリシガ、明治維新ノ初ニ悉ク天下ノ諸關ヲ除キ、今ハ全ク其跡ヲ止メザルニ至レリ、

〔倭名類聚抄居處〕關 蔡邕月令章句云、關古還反、字亦作關、日本紀云、關門也、世岐度、在境所以察出禦入也、

〔類聚名義抄門〕關音撰 關 二正 關 俗 關 俗 又弁飯 二 關門 七キト

〔伊呂波字類抄地儀〕關七キ、俗作關、亦作關、天武天皇八年己卯十一月始 關置關門之由見弘仁格、說文云、以木橫持門戶也 刻 七キ

〔運步色葉集勢〕關所 關戶 關鎖 塞 關

○按ズルニ、職員令大國守ノ條、關刻ノ義解ニ、關者檢判之處、刻者塹柵之所トアリ、〔書言字考節用集乾坤〕關月令章句、關在境、所以察出禦入也、韵會、要會也、又城塞門也、

〔東雅地三〕關 七キト 七キトは塞也、トとは所也、要路を塞テ非常に備るをいふ、孝德天皇大寶二年、初テ關塞、斥候、防人を置れしと見えしは、是等の事の始なり、略 下